



責任を負う自由—Losing isn't an option の精神—

山本選手の決断は、自由とは単なる選択ではなく、互いの未来を支える意志であることを教えてください。

2025年、ロサンゼルス・ドジャースが球団史上初のワールドシリーズ連覇を果たしました。大谷翔平選手、山本由伸選手、佐々木朗希選手という日本人選手が中心となって世界の舞台で存在感を示し、この快挙は勝利以上の問いを私たちに投げかけてくれます。

第2戦で完投勝利を挙げた山本選手は、翌日の延長18回を前にしても、自らの意志でブルペンへ向かいました。中1日という短い準備期間を「この状況で自分にできることをしたい」という思いから選んだ行動でした。その姿を見た仲間たちは、「彼に投げさせてはならない」と感じつつも、延長戦をホームランで決着させたのです。

この出来事は、自由社会の中での「貢献のかたち」を私に教えてくれます。自由とは、単に自分のために選ぶことではなく、選択が誰かの力になるときこそ価値が生まれる、ということ。山本選手の行動は「今、自分にできることを考え、動く」という姿勢を通して、自由の中に責任が宿ることを体現し、アメリカの選手たちにも静かに伝わった気がします。

この姿勢は、「真理はわれらを自由にする」という建学の精神を掲げる本学の教育にも通じます。子どもたちに伝えたいのは、自由と責任は対立するものではなく、互いを高め合う関係だということ。自分の意思で動くことが、誰かの力になる。その瞬間にこそ、深い学びと成長が生まれるのだと思います。

ドジャースの優勝は、スポーツの枠を超えて、多様な文化が交差する国際社会に生きる私たちへ問いを投げかけています。「自由とは何か」「責任とは何か」「仲間とは何か」。その答えは、山本選手の静かな気概の中に確かに宿っていると私は感じました。世界に発信できる日本で育む心も大切にしていきたいです。

以上は1つの見方ですが、ご家庭でも一連の出来事や言葉を通して話してみたいはいかがでしょうか。

■星和祭バザーの企画とご参加、ありがとうございました！

11月3日（月）、創立79年目の星和祭バザーを盛況のうちに終えることができました。保護者の会執行部および役員の皆様の周到な準備はもちろん、OB・OGの皆さまのご参加、ご友人の皆さまのご来場、就学前の児童連れでのお越しもあり、和やかな一日となりました。六年生手作りのお化け屋敷も好評で、1年生の中には17回も入場した子がいたと聞きました。

また、2つの課外クラブの参加やキッチンカーの出店もあり、楽しい雰囲気が広がりました。ありがとうございました。

